

# 光輪闘争に支援カンパと連帯を!

～若林社長の逃亡を許さず、雇用責任、未払い賃金の支払いを!

光輪の仲間は、倒産に屈せず 新たな出発をめざす～

すでに伝えられているように、4月24日に(株)光輪モータースは、東京地裁に破産申立をして倒産しました。組合の組織破壊と争議解決の引き延ばしを図ってきた若林社長は、何も告げずに姿をくらまし、逃亡しています。

全統一労組・光輪モータース分会、支援共闘会議は、無責任・非道きまわりない若林社長の逃亡を許さず、「光輪モータースの事業を引き継ぐためにつくられた(株)光輪はもちろんですが、一体のものである(株)ズーム、(株)光和商会も私たちとの話し合いに応じなければなりません」として、光輪モータースの破産説明、雇用責任、未払い賃金の支払いを求めて、3社に団交要求をしています。

また、全統一労組と光輪モータース分会の仲間は、会社ビルの防衛を強化すると同時に、東京地裁・破産管財人(弁護士・松木秀信)側に対し、若林社長の責任追及と2700万円の未払い賃金をはじめとする労働債権確保のための対応を強化し、また、「倒産から新たな出発」を目指し、「労働者自らの手で雇用をつくり出し、事業再建＝若林社長を排除したオートバイ事業にむけて歩き始めました」として、事業再建・自主営業で倒産と闘う道を歩もうとしています(別紙・ピラ参照)。

光輪モータース分会の仲間は、12年目という長期の争議を闘ってきたとはいえ、突然の会社倒産で、4月30日に支払われる予定であった4月分給与も支払われることもなく、家族共々、路頭に放り出されたのである。

光輪モータース分会の仲間は、5月1日の第79回日比谷メーデーでも「自主営業で倒産と闘います」「生活と事業再建に、皆様からのカンパお願いします」と、ピラ配布とカンパ活動を行って闘っています。

このように12年目という長期にわたった光輪モータース闘争は、最終段階の重要局面に入っています。若林社長のワンマン経営＝会社私物化、組合破壊と争議解決の引き延ばし、会社倒産攻撃、無責任逃亡を許さず、光輪モータース分会の仲間の「生活と争議」を支援し、闘争勝利のために支援カンパと連帯を強化しよう。

倒産攻撃に負けないぞ! あらゆる争議に勝利しよう!

私たち、  
光輪モータースで働いていた組合員は、  
新たな出発を目指しています。

4月24日、(株)光輪モータースは、若林久治社長が東京地裁に会社破産を申し立て、倒産しました。

光輪モータースの若林社長は、私たちに何も告げずに姿をくらましました。私たちと家族は当日の朝突然、会社の破産と解雇通告を告げられ、路頭に放り出されたのです。

今月の給料も支給されず、裁判所で確定している2,700万円を超える未払い賃金も払われていません。社会保険などの社会的地位の回復手続きなどもいっさい行われていません。若林社長と一部の役員・従業員は無責任に光輪モータースを放り出しました。

私たち光輪モータースで働いていた組合員は、未払い賃金をはじめ、労働者としての権利を保障させるために奮闘しています。

がんばりますので、今しばらくお待ちください

私たちは光輪モータースの倒産から新たな出発を目指しています。

この度の光輪モータースの倒産は、あまりにも有名な若林社長の法律無視経営事業の終焉でもあり、私たちはこれを「チャンス」でもあると前向きに捉えることにしました。

これまで私たちの生活を支えていただいた多くのオートバイファン、上野バイクタウンファンの皆さんの、より充実したオートバイライフの形成にともに携わりたいと考えています。

光輪モータースの破産管財人にも話し合いを求め、若林社長や光輪モータース役員の社会的責任を追及し、各方面へも働きかけて光輪モータースからの新たな出発に向けて努力しています。

光輪モータースのお客様、取引業者様をはじめ、関係者の皆様におかれましては、若林社長の無責任逃亡で多大な混乱が生じていることと存じます。

私たちも同様ですが、その上で新たな一歩を踏み出しました。

どうか、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

2008年4月26日

全統一労働組合光輪モータース分会